

日本アマチュア無線連盟

土浦 アマチュア無線 クラブニュース



通巻

第400号 記念特集

2009年 3月号

創刊400号によせて

会長 JO1LEA 松澤 由幸



土浦アマチュア無線クラブの会報400号創刊おめでとうございます。
発刊にあたり、ご尽力下さった多くの方々に心からお礼申し上げます。有難うございました。

会報第1号は、今は亡きJA1VN 矢口先生が中心となって、昭和49年10月に発行されたと聞いております。以来35年間皆様方のご協力のもと発行を続け、今日第400号が発刊出来ますこと感無量です。

昭和49年という年は、昨年土浦アマチュア無線クラブがホスト役を務めた県支部事業の茨栃合同ミーティングが始まった年であり、アマチュア無線が盛んになって来た時期でもあると思われます。私の生まれも昭和49年で同年代、我が人生と同じ35年間、活発なる活動のもと会報が発行されて来たのを見ると、会員一人一人が力を合わせた長い年月の経過であると実感いたします。

このように、アマチュア無線が盛んになって来た足跡、そして長い間の会活動を伺い知ることが出来るのも会報のお陰であると思ひます。今では、パソコンの発達に伴いインターネットや携帯電話が普及して、会報発行も楽になって来ましたが諸先輩が携わった頃は、大変なご苦勞があったと思っております。

会長という大役のもと400号発行に向け、昨年の10月から準備に入り、12月校正、この度会報が発行出来ましたこと大変光榮に思っております。

更に、今後クラブの会員が一丸となって運営にあたり、500号、600号が発行出来ます様、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様のご健勝とご多幸、そして益々のご活躍をご祈念申し上げまして、創刊400号発刊の挨拶といたします。(2009年3月2日差替)

クラブ会報 400 号記念をお祝いして

(社)日本アマチュア無線連盟

会長 JA1AN 原 昌三

このたび、土浦アマチュア無線クラブの会報が幾多の歴史を積み重ね、400号を迎えられますことを心からお祝い申し上げます。また、永年に亘ってクラブの運営に努力されてこられましたメンバー各位に対し、心から敬意を表すとともに、JARLの活動にご協力をいただいていたことにつきましても厚くお礼を申し上げます。

皆様方のクラブが昭和31年に結成されてから今日まで、わが国のアマチュア無線はさまざまな発展を遂げてまいりました。とくに技術や運用については、無線機は手作りの時代から、電子技術を駆使した高性能で多機能なものが誰にでも使える時代に様変わりしてまいりました。また、衛星通信をはじめ、データや画像通信などさまざまな通信方式を楽しんだり、外国との、あるいは外国からの運用も普段の事として楽しんでいける時代へとなっています。

このような発展は、これまで皆様方をはじめとする熱心なアマチュア無線家の方々が、新しいことに取り組み、その普及に努力されてきた結果であり、今後もさらにいろいろなことに積極的にチャレンジして、技術や運用の可能性を広げていきたいものと存じます。

ところで今年、2003年に開催された国際電気通信連合(ITU)の世界無線通信会議(WRC-03)の審議結果を受け、われわれが願ってきた7MHz帯が100kHz拡大され、7,200kHzまでの200kHzの幅へと倍増となる予定であり、短波の面白味を新人の方にも味わっていただける、アマチュア無線活性化の新しい出発点にしていきたいものと存じます。

これらの新しくとても良い動きがありますので、どうか皆様方もこれからも新しいことに取り組んで、アマチュア無線にいっそうの活力を呼び込んでいただきたいと思います。

最後になりますが、クラブ報400号をお祝い申し上げるとともに、伝統ある皆様の土浦アマチュア無線クラブがこれからもさらに発展されますことを、また、メンバー各位のますますのご健勝とご活躍を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



ごあいさつ

社団法人 日本アマチュア無線連盟
関東地方本部長 JH1UBU 根本紀正

400号の発刊、誠におめでとう御座います。記念すべき発刊に当たり手記を寄せることが出来ますこと大変光栄に存じます。

土浦クラブといえばVNさん（故矢口孝志・JA1VN）。生前、彼との話の中でクラブ報の編集が大変なんだよ。だけど、これがあったので俺はワープロ覚えたようなもんだ。ローカルのクラブ員が教えてくれたりトラブルシューティングはもとよりこれ使ってくれと言って最新式のパソコンまで持ってきてくれたりクラブの皆が支えてくれました。と語っていました。

私のところには第1号から土浦クラブ報があります。古いふるい土浦クラブとの付き合いの証でもあります。茨城県支部長だった頃、支部行事のお知らせは総てこのクラブ報に掲載されており、参加取りまどめのクラブ担当者が明記されておりました。またクラブ報を通じて辛口の批評もいただきました。

クラブの活動は野に山に太平洋の海原で釣り大会を、はてまた支部行事へは総て参加するものと定まっていたようです。

クラブ報が総てを知らせてくれました。何とうらやましいことかと思うこと仕切りでありました。

いまDXコンディションは芳しくありませんのでハイバンドでのローカルQSOを盛んにしていただきクラブ内のコミュニケーションを更に強靱なものにしていただきたいと思います。またクラブ報の紙面も更ににぎやかに500号600号と回を重ねていただきたいと思います願うばかりです。

最後にクラブ員の皆様の健康とますますのアクティビティを祈念してお祝いの言葉と致します。



力があるから継続できる

JARL 茨城県支部長 JH1WFK 深津 義徳

会報400号発行おめでとうございます。毎号送っていただきありがとうございます。単純に計算すると33年を超える継続発行となります。「継続は力なり」という格言がありますが、力があるからこそ継続できることを成果から表現したものでしょう。

企画・原稿集め・編集・印刷・配布の工程のなかで、最も苦心するところは「原稿集め」でしょう。何うところによれば「クラブ員全員が当番」のように執筆を担当しているとのことで、素晴らしい伝統です。

原稿を書くにもネタが必要ですから、クラブ・個人で活発な活動があつてのことでしょう。

会報を定期発行しているクラブは県内にもいくつかあると思いますが、情報を集めて県内クラブの活性化・支部の活性化に役立てたいと考えております。

ぜひ、先達として支部のけん引役をお願いいたします。



県支部役員会にて
(2008/06/18)



400号記念に寄せて

JARL 茨城県支部事業担当幹事

JG1WMN 葛綿 繁

簡単に400号と言っても月一で400号を発行すると言うことは大変な継続努力・そして苦勞があつたと思います。

クラブ員・役員、そして事務局に感謝です。茨城県支部の中でも50年以上続いているクラブは数少ない

です。私も支部役員になりまして30年が過ぎましたが皆さんの力の集結が永続の原動力となってクラブの存続につながっていると思います。アマチュア無線をしていなかったら出会うことのない友人も沢山出来、故JA1VN局をはじめJARLの関係の方との交流と土浦クラブの応援のもとつくば万博・茨城県支部記念式典・合同ミーティング等大きな行事と言えば頼りになる土浦クラブ！に甘えて願いして最高の事業をして頂き感謝の次第です。

これからも JARL 茨城県支部の登録クラブの代表格として JARL 及び茨城県支部にお力添えをお願い致します。 (写真中央が WMN 局)

クラブの運営、会報発行へ尽力頂いた、故JA1VN局との交流の深かった小林様から思い出を投稿いただきました。

忘れもの (VNさんの思い出)

JA0GX 小林榮一

ノーベル賞の授賞式のあと、益川さんは「眼鏡を置き忘れてきた」と記者を笑わせた。



この画像を見ながら、私はふと奥様とお越しになった時のVNさんを思い出しました。

高速道路の旅は、同乗の奥様にはかなり応えたらしく、到着した時は、かなり車酔いされて苦しそうでした。私は、にわかインチキ医者よろしく「これ一服飲めばすぐ直りますよ」と暗示をかけ、胃薬を差し上げたのでした。

(効き目は不明・・・)

VNさんは、奥様を気遣いながら、安曇野・松本の探訪を終え、お別れしました。

無事お帰りになったかと案じていた所、電話が鳴り、安着の知らせで、ほっとしましたが「GXさん、実はカメラを宿に忘れてきてしまい大チョンボでした・・・」とのことにはビックリしました。翌日取りに行き無事手元に届いたことは、言うまでもありません。多分奥様の体調に気遣いの余りのことと想像にかたくありません。

白川郷の合掌造りを観たいと言うのは口癖でした。朝の交信でも、ハムフェアでのアイボールQSOの時も何度も計画を話しあったものです。私は奥様の体調を思い車が駄目なら電車で、ここからは私がゆっくり運転しますからとお誘いしていました。

結局お一人となり、私と珍道中が始まりました。家へ着くなり「又忘れ物をしてしまいましたよ・・・Hi」はて？・・・旅行かばんを家に忘れてきてしまったと言うのです。このハプニングも恐らく、奥様との旅を案じての顛末だと思ったものです。

白川郷の民宿で一泊し、越中五箇山まで足を延ばしたことは良い思い出になりました。

「ここへ来たかったのだよなー」じっと合掌造りの骨組みを眺め動こうとしないVNさんの姿は、今でも忘れることが出来ません。

家族を愛し、クラブの皆さんをこよなく愛した飾らぬお人柄のVNさんは、忘れ物をされて旅立たれてしまいました。私が最後の1枚のQSLに苦労していた時、クレジットで、「GXのアワードの為にQSL送れ」と5A1Aに手紙を送って頂いたグリーンスタンプ代は未払いですよ。「このつけは、そちらへ行った時まで忘れて下さい。」

「GXさんおめでとう。まだ電話ではWAZできていないのですよ・・・」こんなに私の心を揺さぶった言葉はありませんでした。生き様も教わったハムの大先輩でした。



合掌

付記 400号おめでとう御座います。貴クラブの益々のご活躍をお祈り申し上げます。ご配慮頂いたOM方に心からお礼申し上げます。

クラブ報400号によせて

副会長 JE1RLK 田中 文之

土浦クラブ会報400号おめでとうございます。

当局昭和46年12月電話級免許証を取得、47年3月開局し、当クラブに入会しました。

入会前はVN局と中学生の頃から模型飛行機での交流がありました、幸か不幸かはわかりませんが、VN局には、授業を受け持っていたことは一度もありませんでした。

飛行機関係でVN宅へよくおじゃまし

JA1IOA, PBV, LIS, ITJ, PMS, WFB, XVT, JH1WGP 各局と知り合うこととなり、お前も無線の免許を取ってこいと云うことになりました。

開局はスタンダードC-806、アンテナは自作5/8GP、同軸ケーブル、IOA局からのいただき物で、テレビのアンテナの上に設置し、無線機以外お金はかかりませんでした。

入会当時クラブ員は16名でしたが、その後、何年頃かは記憶にありませんが、2度か3度、クラブで講習会を開きました。私も少しばかりでしたがお手伝いさせて頂きました。



そして無線局が増え、クラブ員100名以上の大世帯クラブとなり、現在に至っております。

印象的な思い出として、開局して間もない頃、2Mで北海道とQSOするということがJA1IOA、ITJ局と北茨城の方へ移動しました。

私はQSOに関しては当時あまり興味がありませんでした。連れて行って貰えるのが、嬉しくてたまらなかった事が思い出されます。

思い出は、数限りなくありますが、紙面の都合上この辺でやめます。

今後、アマチュア人口の減少、若い世代の無線離れ、当クラブも高齢化、土浦クラブの将来のため、若い世代の無線への誘い、又育成等クラブ員一丸となって、頑張りたいと思います。



400号発行に当たって

副会長 JG1OSX 木島 一夫

土浦アマチュア無線クラブ会報400号達成、おめでとうございます。

単純に400号といっても400号=400月数=33年の長期に渡って休む事なく、出稿ご苦労様でした。

特に、会報出稿業務に携わってこられた各役員さん、及び毎月記事としてどなたかが、お忙しい中、時間を裂いて会報存続の為に熱い取組の姿勢、33年間に渡る方々の気力かと思えます。

今迄その中心となっていたJA1VN矢口先生の並々ならぬ出稿業務に対する強い意志、信念、それに対するクラブ員全員の前向きな姿勢等々、結果として永きに渡って会報出稿達成に至っている事と思えます。

これからも、クラブ員各局、お一人々の会報に対する御協力をがんばりましょう！

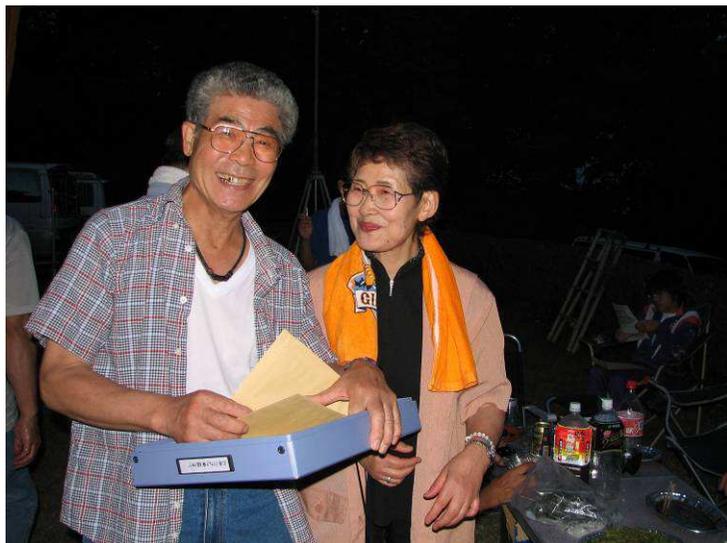


左より、JG1OSX、JA1OVF、JA1IOA

クラブ会報 400 号を迎えて

事務局 JF1MFE 久松 満男

土浦クラブが発足したのが昭和 31 年とか、会報が発行されたのが定かではありませんが、昭和 33 年頃と聞いています。それから、50 数年この年月を一つのクラブの会報を作成することは大変なことです。発足時の原稿は、ガリ版印刷であり、鉄筆でガリ版原稿用紙に書きトウシャバン版?で印刷された話を聞きましたがそのうち、タイプライターで打つようになったと大分楽になったようです。VN 局いわく、会報は“自分で勝手に書いて皆に読んで貰ってたんだ。何人でもなかったからな”と。そのうち、“会員も増えて容易なことでは無い”との話がありました。



私がクラブに入会したのが昭和 47 年頃と思います。それからの、長いお付き合いですね。その当時は、ほとんどの会員さんは若かったから、行事もひんばんで賑やかでした。会報の記事も不足しないのですが、近年は VN 局も骨をおっていたようです、一概に会報と申しますが大変なことです。それを 50 数年を発行し

て来た事は、土浦クラブとしては誇りにおもいます。その中でもクラブの各運営を支えてきた役員のご協力も偉大なことです。長年の役員協力を頂いている局長さんは本当にありがとうございます。

VN 局が仕事の関係で出来ないときがありまして、一時はクラブ報も危機を感じたときもありました、当局もその後をついて 2 年間頑張った時期もありました。その苦労は良く分りますので、いかに大変であるか。又、表紙の挿絵との注文もありまして毎月の挿絵はきつかった記憶がありました。今は、沢山の役員の協力があり、本当に助かります。最近ではほとんどの役員さんが長期でご協力頂き申し訳ありません。会員さんも少し若返りまして協力していただける人が入会いただけると、嬉しいですね。

いずれにしても、土浦アマチュア無線クラブ会報が「400」号記念の発行を迎えると言う事は偉大なことです。全国でも、数少ないことではないのでしょうか？ 土浦アマチュア無線クラブの誇りです。

会報「400」号、記念発刊おめでとうございます・・・

400号に寄せて

事務局 JH1WGP 大木武

創刊以来400号という大記録達成おめでとう御座います。会員皆様と共に喜びたいと思います。創刊以来の30余年間は、高度成長期、バブル、バブル崩壊、そして現在はどうか？低迷時期でしょうか？時代の予測は難しいものです。

会報創刊時はまさに高度成長の始まりで年々給料も当然のように上がって行く明るい時代だったように思います。そんな中、この会報がガリ版で出版されたとは今は亡きJA1VN矢口先生の思い出話をよく聞いたものです。

先生は、会報を楽しみに待っている方がいる、その方の為にも何としてでも休刊せず続けたいと強い意思を持っておられました。また、会員の皆さんからも役員時代の会報作りは大変だった、特に原稿集めが大変と聞いた事が何度かあります。今、私が其の立場です。原稿集めは努力が要りますね。今日の記録に至ったのは、先生の強力なリーダーシップと会員一人一人の協力とが融合したからではないかと思っています。

私は、先生が生前中会社の帰りによく先生にピクニックと呼び止められ“強制的？”に立ち寄ったものです。コーヒーを頂きながら世間話、無線のことなど語り合いました。そして事務局の一員として会報作りを先生と一緒にしたものです。と言っても出来上がった会報を袋に入れたり住所ラベルを貼ったりする単純作業ではありましたが・・・でもこれも会報作りには必ず必要な大事な仕事です。今我々事務局は、原稿集めや原稿の誤字、脱字のチェックなどはほとんどメールのやり取りで進めています。便利になったものです。しかし前述の袋詰め等は、手作業です。

早いもので先生が亡くなられて一年が過ぎました。其の直後の400号記念発行！！これも縁と言うものでしょう。「先生ご安心下さい。途切れることなく会報は発行され続けていますよ」

これからも先生の強い意志を引き継いで会員全員の方でこの土浦アマチュア無線クラブが発展続けるよう協力して行きましょう。



上は合同 M。左は華巖の滝でソロモン人の友と

土浦無線クラブ会報のデータ化について

事務局 JL1LLM 中田 達也

土浦アマチュア無線クラブ会報400号発行おめでとうございます。400号と言うことは、単純計算で月1回発行として、 $400 \div 12$ で33.3年。初回発行当時は毎月発行とはいかないでしょうから、35年以上この会報は発行され続けて来たと言うことで、発行に携わった先輩諸氏に改めて敬意を表したいと思います。

クラブの発足は昭和31年との事ですが、この会報に関して初回の発行は、いつどなたが行ったか調べてみましたら、昭和49年10月に、故JA1VN矢口OMが、定期的な会報として、当時としては画期的な和文タイプで発行したのが最初ようです。

ただ、この第1号の記載に、これ以前に不定期で何度か会報が発行された旨の記述が有り、各OM諸氏にお手伝いを頂き調べた所、書類として残っているものが昭和44年9月24日に【土浦クラブ会報 No.1】としてJH1HYPの相原OMが、手書きにて作られたと思われるものが発掘？され、これが最古と思われる。

その後、同45年5月に2号、7月に3号、9月に4号と、色々な方が出筆され、計4巻が発行されたようです。巻数を数え始めたのは、上記の49年からですので、幻の4巻と言う所でしょうか・・・。

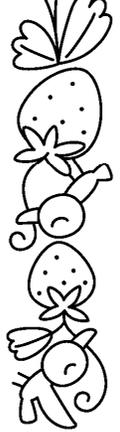
現在、400号記念と言う事もあり、今までに発行された会報をデータ化しています。2008年12月時点で9割がた作成が終わっています。

古い記事を見てみると、記事の内容や、作成方法等、随所に大変さがにじみ出ています。また、当時を知る方には懐かしく感じる部分が有るかもしれません。

作成が終了しましたら、皆様に閲覧して頂けるよう、対応を考えたいと思いますので、暫くお待ち下さい。

尚、この場をお借りして、ご協力頂いたJA1LIS・JE1RLK各OM局に改めてお礼を申し上げます。(写真はFOXとなった2008年、左から二人目)





会報通巻 400 号、おめでとうございます。

会計 JN1VVE 高野 初江
毎月、欠かさず発行して下さる事務局の方々にも頭が下がります。

VN亡き後、ますます大変だと思いますが、これからも宜しくお願い致します。

JA1PBVのお陰で、クラブのホームページも出来ましたし、過去の過去の会報も見られるようになっていました。

また、第1号から大切に保管されていた方がいらしたとは驚きです。

几帳面と言うのか、まごころというのか、見習いたいです。



JN1VVE (左)、
7M4 PLK 局 (右)
茨城・栃木合同 M で
(浮島)

忘年会にて会長
との2ショット



JE1SWO の自己紹介

運営委員 JE1SWO 大内文男

クラブ会報 400 号おめでとう御座います。

遅ればせながら、私 JE1SWO の自己紹介を致します。

昨年、JA1VN 矢口 OM から運営委員をせよと言われ、入会して間もない私は辞退したのですが“是非やれ”との厳命でクラブの事情もわからないままにお役に立てない運営委員をやっております。

私が HAM を知ったのは高校時代(昭和 31 年)に 7 メガの AM による QSO を聴いたことから始まりました。当時 SSB 局はほとんど無く JA1ACB 局が SSB 電波を出しているのは聞こえましたが、受信機に BFO が付いていなかったので復調できませんでした。7100KHz 以上には、JA テン**の call sign でアンカバーが多く出ていましたが、自作の送信機、受信機でした。高校同級生の送信機作りを手伝ったりしましたが、今考えると測定器はテスターのみ、受信機はコイルパックがトリオから売り出されていましたが、送信機や VFO のコイルは適当に巻くしかありませんでした。周波数は周波数目盛りもない受信機でアマチュア局が出ているところがハムバンドということで 7 MHz を確認しました。ANT も SWR メータなど市販品もなく、長さは計算した値に切断し、同軸も市販品などあるはずもなく、適当なビニール線でした。割り箸をパラフィンで煮て、はしごフィーダーの絶縁に使えばよいと当時の CQ 誌の記事が有ったのを記憶しています。

JA テン**局は電波監理局に摘発された局も多かったようです。その後、社会人となり遠ざかっていましたが、キットで発売された TRIO の 9 R59 を組み立て、SWL をしているうちに当時の電話級 (現在の 4 アマ) を受験し合格しました。その頃の電話級試験は、現在と違い問題は択一式でなく、全て記述式でしたので、現在よりレベルが高かった? と思います。共振回路の計算は、計算式を示して回答せよ。であったと記憶しています。

こんな問題が出ていたのをかすかに記憶しています。

超短波無指向性アンテナを 3 種類以上記せ。

無線従事者の欠格事項を三つ以上記せ。

従事者免許が来たので、早速局免ということになり、当時 50 MHz の AM 全盛期で TRIO から初のハンディー無線機 (と言うより肩掛け無線機) TR1000 が発売されたので、これを購入、局免申請をし、愛知県小牧市在住であったので JA2LUW の call sign が指定されました。重い TR1000 を担いであちこち移動して回りましたが、電池がすぐに無くなるのと VFO ではなく送信は水晶制御のため出られる周波数が限定され、不便でしたが、当時としては持ち運びできるトランシーバとして画期的な製品でした。その後 TR1100 にモデルチェンジされかなり小型軽量化されました。144MHz の FM まだ少数局がタクシー無線機を改造して運用している程度で、モービル局も 50 メガ FM が主流、長いアンテナをなびかせて走行しすぐにアマチュア局と判りましたし、その頃はパトカーも長い ANT を使用していました。

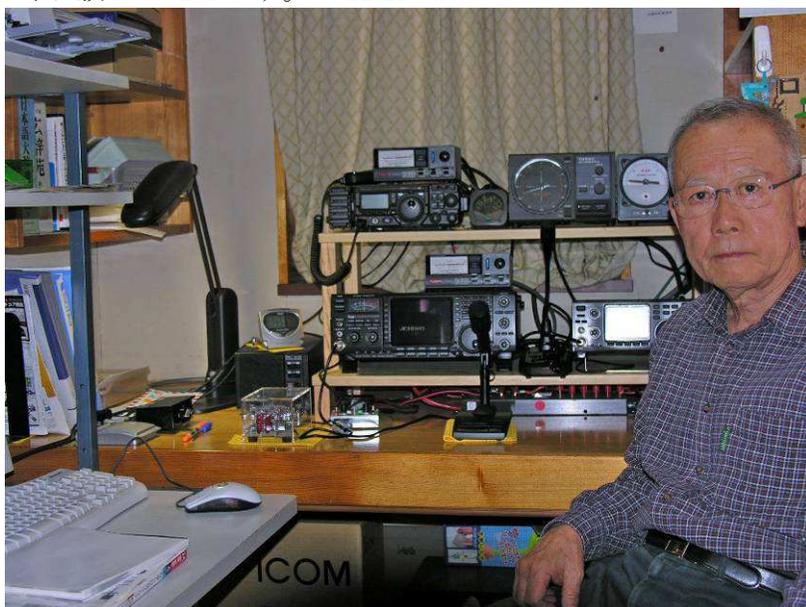
その後、埼玉県に転勤。HAM と遠ざかっていましたが、同じ職場の同僚(3 通所持者)が開局するというので、私も申請し、JE1SWO の Call sign の指定を受け

ました。Kenwood (当時 TRIO) の QS-500 という 50MHz の SSB トランシーバのキットを組み立て 50MHz の SSB を楽しみました。発売間もない FT-101 も購入しましたが狭いアパートではあまり活用できず、宝の持ち腐れでした。144MHz FM 局が増え始めましたが、未だ水晶制御のためあちこちでチャンネル争いが繰り広げられ聞くに堪えないやりとりが多く聞こえました。144MHz はこれから SSB だという記事が当時発売されていたハムライフ誌に載り、その気になり SSB の車載機を購入し、車であちこち移動サービスなどをして楽しみましたが、144MHz の SSB はまだ一般的でなく、機械が自作か日本電業製のみでしたので、交信相手はおなじみの局が多かったです。

昭和 50 年春、突如沖縄転勤になり、車に 144MHz FM Mobile 機を積みフェリーを二つ乗り継いで沖縄に赴任しました。

沖縄では JR6RPX の免許を受けましたが Mobil 専用に使ひ、JE1SWO/JR6 で 50MHz SSB の Es 3 シーズンを経験・運用しました。最初に Es で本土の局が 1 局だけ聞こえたので Call し QSO が終わったとたんワーンという大パイルアップになり、予想していなかったので、絶句でした。気を取り直し多くの局と QSO 出来ましたが、これはいかたに電波は出せないかと反省、しばらくワッチし、それなりの心構えをしてから、QSO に専念できる体制を整え (トイレ等) CQ を出すようにしましたが、Es がフェードアウトする迄呼ばれ続けるので昼飯を犠牲に QSO したことも何度かありました。現在より何倍もの局が 50MHz の SSB に出ている時代でしたので QSL カードの印刷代が大変だった思い出があります。仕事の関係で 1 度ダクト (Es?) の発生に気が付き、144MHz ホイップ ANT で 3 エリアの数局と QSO 出来たことがあり、速達の SASE が来ました。59+ の入感でしたが、すぐにフェードアウトして短時間の Open でした。

その後昭和 52 年暮れに土浦に転勤になり、サテライト DX を少しやった期間もありましたが、QRT 状態の期間が長く、アクティビティーの低い状態でしたが、仕事の完全引退を機に少しアクティビティーがアップした状況です。土浦クラブ各局これからも宜しくお願いいたします。 TNX 73



クラブ記念誌 400 号発刊によせて

運営委員 JO1FYS 久松 充信

「400 号」記念誌の発刊、誠にありがとうございます。

いつも楽しく読ませて頂いています。400 号と言えば約 30 年以上にわたる長い年月になる出しようね！ 1 口に 30 年と申しましても大変長い年月であり、その影には並々ならぬご苦労があったものと、作られてこられた皆様に心から感謝申し上げます。

思えば今は亡き VN 先生がよく言ってましたね！「どなたか記事を書いてくださいませんか？ 1 度でも発行できないと伝統が切れてしまうからね！」って。

文才のない自分なので本当に申分けなく思っていました。クラブ員の活動状況や、クラブの行事予定や行事の各報告等、色々なコーナーがあっいつも楽しみにしております。

会報は、各行事やオンエアミーティングに出られないクラブ員全員が見られる唯一の情報誌なので一番貴重なものと思っております。

事務局の皆様には本当に感謝しております。これからもよろしくお願ひします



創刊 400 号によせて

事業担当 JA1PMS 鳥羽 久良

土浦クラブニュース 400 号、創刊おめでとうございます。

これまで御尽力いただいた、役員の皆様に感謝いたします。

思えば 200 号がでるあたりからアクティビティが下がりその後 20 年間 Q R T の期間がありました。

今回、皆様の協力を頂いて再び電波が出せるようになりました。P B V 局を初め多くの皆様にお手伝い頂き、V N 局愛用のアンテナ 714 X X が私のクランクアップタワーに上がりました。

11 月 20 日 10 時、V P Y 局の操作する高所作業車に乗せられた 714 X X がタワーに装着されました。



P B V 局の総指揮の元、W M N、K Z D 局の手慣れた作業で着々と進み、周りの竹や雑木の始末に始まり、電源の確保や同軸ケーブルの引き回しと数日かかり、アンテナ工事は無事終わりました。

その間、私は何もせず見ているだけでした。

最近では、W L L 局の指導により R T T Y を始め、H F で D X



ー Q S O を楽しんでいます。今後は、L O W B A N D のアンテナも計画しています。

今回、アンテナに協力いただいた各局、再度、アマチュア無線に復帰させていただいた各位に、あらためて御礼申し上げると共に、今後の御指導をよろしくお願いいたします。

(写真は再建できたアンテナ)



土浦クラブ会報400号おめでとうございます

事業担当 JF1PEL 山越 道則

会報400刊発行にあたり私が事務局を担当していたときは、まだ、手書きでガリ版で印刷しており、あるクラブ員から「きったねえ字で漢字はでかくて見にくいな」と言われてワープロを購入して慣れない手付きで文章を書いたことを思い出します。今も事務局は原稿を集めるのが大変だと思います。クラブ員の協力をお願いします。右がJF1PEL(山荘にて)



土浦アマチュア無線クラブニュース400号を迎えて

事業担当 JS1VPY 大関 傳

土浦アマチュア無線クラブ員各局、お久しぶりです。

私がクラブニュースに記事を書くのは何年ぶりだか、私もわからない位です。文章書くのが苦手です。

土浦アマチュア無線クラブニュース400号迄、事務局の皆さん、本当にご苦労様でした。当局も昭和60年に無線従事者免許証を取得して、確か次の年にはクラブの役員だったと思います。それから現在までクラブの役員を務めていますが、クラブの事務局を担当した各局は、400号まで毎月の記事収集に、苦労したと思います。

私がアマチュア無線を始めたきっかけはCB無線からです。でもCB無線は2年位で止めましたが、その後、ラジコン飛行機とヘリコプターを20年位楽しんでいました。

ラジコンに大分お金はつぎ込みましたね？ "30年前でヘリコプター1機(上級機)が約10万円以上、送信機(プロポ)も約10万円もしましたから" 飛ばして墜落すると部品代で何万円もかかりましたね、壊さないで飛ばせるまでは何年もかかりました。

今でもラジコンヘリはやってみたいと、少しは思っていますが無理かな？

ラジコンを長く遊んでいたのも、アマチュア無線従事者免許証取るのが遅くなったんですね？

従事者免許証の取得は、土浦工業高校の講習会で息子が小学校の6年生の夏休みに一緒に受けました。

私が JS1VPY、息子が JS1VPZ です。今では、息子は無線に興味がないみたいで、ほとんど出ません。

その後、XYL が昭和 61 年に無線従事者免許証を取得しましたが、やっぱり興味がないみたいです。

無線局免許状が来てから 16m の自作タワーを作り、アンテナは 714T、430MHz スタック、1200 MHz スタック GP を上げて、無線機は TS-940、FT-736、IC1271 (1200 は後かな?) で始めました。

最初は毎晩出て入りましたが QRT も有りました。この頃は良くお酒飲みに某局と出かけた頃でした。1 週間に 1 度は飲みに行ったかな、少しオーバーかも? ラジコンやっていた頃は飲みに行きませんでした、本当です。

昨年、JA1VN (矢口先生) が亡くなられて余りにも突然の事で残念です。私も矢口先生にはお世話になった一人です、矢口先生に “コーヒー飲みに出かけて来なよ” と良く言われました。今でも思い出します。

現在、私の所に矢口先生が使ってたクランクアップタワーが、上がっていますが、矢口先生がクランクアップを上げるのに如何したら良いか相談されました。レッカー車だと道路は通行止め、警察署で許可出るか、また電線が当たる、苦労しました私の取引のあるリース会社で運良くクロラク・レーンが有ったので立てる事ができたのです。

基礎工事、立て方も順調でした。全て終わったときに俺がいなくなったとき “大関さんこのタワーを撤去して持ってって” と言われました。

“撤去するのも同じクロラクレーンですが、古くて無理です” とリース会社で言われましたが無理矢理借りて撤去する事が出来ました。

矢口先生の遺品ですから有効に使わないと矢口先生に怒られますので。今は無線に出来るだけ出るようにしています。

HF、50MHz、RTTY など頑張りたいと思います。

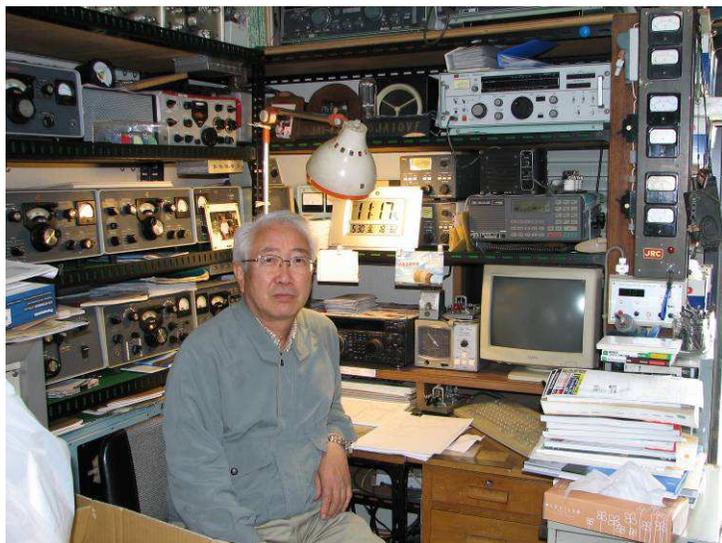
土浦アマチュア無線クラブの各局よろしくお願ひします。



左が JF1PEL
右が JS1VPY
(忘年会にて)

400号おめでとうございます

JA1OVF 山崎建志



いつもクラブニュースを届けていただき有難うございます。その「土浦アマチュア無線クラブニュース」がいよいよ400号を迎える由、誠におめでたく又この間の担当された方々の労苦に脱帽です。

一口に400号といいますが、月1回としますと年12回ですから単純計算で33年以上要したことになります。

今から33年前という事は、昭和50年(1975年)です。

当局は、昭和39年2月11日付けでJA1OVFとして高校2年生のとき開局しました。その頃土浦クラブの存在は知っていましたが、何か敷居が高くて開局時は入会していませんでした。程なくして故JA1VNの薦めもあり入会させていただきましたが、やがて社会人となり東京で職場の寮に入ることになり、実家を空けざるを得なくなり一時退会しました。退会的时候は、JA1IOA局にお叱りを受けましたが、再び土浦に戻ったときには再度入会させていただくことで了解していただきました。昭和49年結婚を機に再び土浦に戻りましたので、お約束どおり再入会させていただきました。

さて、当局は、もう直ぐ開局45年になります。自分自身の歳を思うと、アマチュア無線とはずいぶん長いお付き合いと我ながら感心しています。この間電話級、電信級、2級、1級とライセンスを得ましたが、一番難しく思ったのは、電話級の試験でした。ある程度古い方はご記憶と思いますが、工学は5問出題され、B4の用紙にたった1問か2問が1行か2行しか書いていなく、総て筆算して答えを導くものでした。

今にして思えば、問題内容はそんなに難しくはありませんが、高校生には国試慣れしていませんでしたのでよく分かりませんでした。また、当時電話級が出来て2、3年だったので問題集は今ほどありませんでした。CQ誌に前回の試験結果が出ており、よく解説されていましたので随分参考になりました。4月、10月が試験でしたから、高校生では学校を休んで試験場へ行かなければならなかったもので、担任経由で校長の許可を得て受けに行きました。校長はアマチュア無線のことは全くご存じない方でしたから、担任は郵政省の行う国家試験であることを説明してくれ、校長からは「絶対受かる自信があるなら良いだろう」なんて言われたことを今も覚えています。

生まれて初めて国家試験なるものを受けました。なるほど国家試験とはこういうものか、と酷く感心した記憶があります。絶対受かる自信なんて全く有りませんでした。Hi 運よく合格できましたが、無線機が無いので、郵便局や自衛隊でアルバイトしてお金を稼ぎ、テスターと真空管を買い月並みに807シングル、6V6PPプレート

スクリーン同時変調の変調器を自作しました。CRやトランスなど部品はジャンクで、コイルはなんだか分からなかったので、TRIO から出ていた KX-1 という新品コイルキットを使いました。出来た無線機は製作者の設計意図に反し、TV 送信機になり隣の家から怒られました。hi

次に調子に乗って高校を終えて直ぐ電信級をとりました。もう、時効なので恥ずかしながら白状しますが、免許申請しないで電信に出て得意になっていましたら、三崎の監視部にバッチリワッチされ指定事項違反で捕まりました。始末書を書いて許していただきましたが、今も大事にそのときの「指定事項違反」の文書を取ってあります。

hi

その後、電信は正規に許可を得て、堂々と CW に出、7メガは10m高の DP でも近間の海外と交信でき小躍りしていました。やがて、10W では物足りなくなり、2級にも合格していましたので、正規に電監の検査を受け待望の100Wに増力し大いに海外と交信を楽しみました。コンディションもよかったので、EU など共 QSO 出来悦に入っていました。昭和50年前後です。未だそのときは、DXCC は知っていましたが、夢中にはなっていませんでした。

世界地図は好きでしたので、段々各国と QSO 出きるようになって、QSL カードなんかを手にするようになり一人ほくそ笑んでいましたが、どうもオーバーシーと QSO している連中は DXCC の話が中心で、当局と話がかみ合いませんでした。

そうこうしているうちに、病嵩じて「カントリー」(現在のエンティティ)なる言葉にすっかりはまり、ANT はビーム化し DXCC を追いかけるようになりました。八木 ANT は正直でエレメントを増やすたびにカントリーが増え、益々深みにはまりました。でも、その頃は、オーナーロールは夢の夢でした。また、ローバンドの DX は無理だとも思っていました。しかし、世の中はどんどんビッグアンテナとハイパワー化し、ローバンドにもビーム ANT が珍しくなくなりました。そんな中で当局は、相も変わらず100Wとパンザマストにマルチバンダーの3、5エレの八木を乗せて頑張りました。その甲斐あって、とうとうオーナーロールになり、ARRL から盾を戴きました。

さー、こうなると人間欲が生まれて、60歳の定年も真近になっていた折り「当局の環境では何が頂上か」なんて考える始末で、釣り人は「ヘラに始まりヘラに終わる」なんチャッテ。しからば、開局時のサンハンをもう一度見直し、ベアフットで100カントリーはできないものか?などと頑張ってみました。ANT は初め15m高の DP や INV でしたが50Cくらいで足踏み状態でしたので、一念発起してクリエートの CD78Jr を購入しパンザもクランクアップタワーに換え、地上高25mまで上げて見ました。するとどうでしょう。2シーズン半で遂に去年(平成19年)10月に100CとQSO でき、今年2月には100Cコンファームしました。ベアフットでもやれば出来るもんだと、大いに感心しました。80mの一番の思い出は何と言ってもリビアの5A7Aです。という訳で当局は、遂にベアフットで5バンドDXCCの完成を見ることが出来ました。自分で言うのもおこがましいのですが、「継続は力也」と思っています。5バンドのカードを揃えましたので、近くARRLへ申請の予定です。

MI XのDXCCは後、4C残っています。これからは、オーナーロールの維持とニューを落とさないようにと思い、先般HF帯用に2エレのCQを上げました。何を今頃CQを・・・と思われるでしょうが、当局にとっていつかはやってみたい永年の憧れのANTです。どうやら、この辺が当局の「頂上」と思っています。GL/73

私とアワード

JI1WLL 小澤 靖

国内最高の読売 1 万局を 1999 年 6 月 29 日付けで全日本クラス 339 号を頂き付き添いの JA1VN と 11 月 11 日に読売新聞本社に出かけ、表彰式に出席し VN の顔の広さで、色々な方々に挨拶と紹介して頂いた事を昨日のように覚えております。

最近、DXCC/Mix でオーナーロール入りを果たし、ひとまずアワードは終わりだなと思う今日この頃ですが、思えば JK1FYK 高橋さんと 144MHz で JCC/JCG を争い、アワード取得では JG1IIE 関根さんと競い合いました。

海外アワードでは、ADXA (アジアの 30 カントリー) の申請を JA1VN と争い結果的には、私が申請のお手伝いした思い出があります。申請時は中国、ベトナム、カンボジア、ビルマ、北朝鮮などがアマチュア無線を禁止しており、非常に難しいアワードでした。ADXA はその後、RTTY モード、50MHz で 15 カントリーのハーフを取得しました。

次に、多くの国内外のアワードを取得しようと当時西ドイツの DIC に入会。国内も ACC や JAG にも入会し、色々なアワードを取得しました。マクロ的な JA8-888 局とか、ミクロの全町村賞とかです。

2009 年に茨城アワードのルール変更が有るので改めて申請しようとカードの整理と申請書を作成しました。JARL のアワードは AJD を初め WACA、WAGA など多くのアワードを取得しました。

コンテストもアワードの一つだと思い、ローカルコンテストに参加し色々な賞状を貰いました。ユニークなのは 1 4 4 MHz でオール四国コンテストの一位を 3 回も取得しました。関東 VUHF コンテストの前身で東京都支部第 1 回コンテストでは都外 4 3 0 MHz 部門で第 1 位になりました。楽しい思い出であります。

さて、この辺で自慢話は止めて、皆さんに読売 1 万局の取得方法を伝授したいと思います。まず、2500 局ずつの A-B-C 賞を申請せず、一括申請をすること。

これは、異なる局による 12WAJA (1 バンド 4WAJA まで) を作らなければならないし、これが結構難しいのです。それと、ひとエリア 5%以上 15%までというルールがあります。1 万局の 5%は 500 局ですから、関東の場合 5 エリア 9 エリアが局が少なくネックになります。また、1-2-3 エリアはハム人口も多いのですがひとエリア 1500 局しか使えません。この 2 つのルールでまだ申請できない方が大勢居ります。

そこでローカルコンテストに参加し、QSL カードを乱発するのです。私の場合、異なる 1 万 1 千局位で申請したのですが、カード発行は 1 万 5 千枚位コンテスト等で発行しました。現在ハムログによる累計によると登録 21067 局、ファースト局 15012 局です。当方のハムログはカードを頂いた方だけなので実際のカード発行は 2 万 5 千局を超えていると思います。ちなみに 5 エリアは Mix で 954 局、9 エリアは 858 局になります。ダブリが多いので実際は 600 局位でしょう。また、WAJA に使用する局も一括申請なら 21 で使うとか 28 で使うとか選べます。以上が、読売 1 万局に対する心構えです。

次にアワードの取得ですが、国内は AJD (1 エリアから 0 エリア)、WAJA (全都道府県)、次に JCC/JCG。バンドモードにこだわらない方は簡単にできますし、後日、出来てない所を消していけば良いのです。私の場合、Mix-WACA が 1990 年 1 月 985 番で 2007 年 3 月に 2045 番を取得しました。珍しいところでは 144MHzSSB で WAJA

を 1989 年 9 月 16142 番。最近では、3.5MHz で 21589 番を取得しました。AJD は、衛星通信でも取得しました。

海外アワードは、WAZ を 1983 年 8 月に 21MHz で 177 番、WPX を 1983 年 10 月に 1629 番で取得、1985 年に CQ 社の記念アワードが発行され JA1VN 矢口さんと競い合いました。その後の 1987 年 ARRL の DXCC 記念アワード、2000 年記念アワードも競い合い、良い思い出になっています。

さて、この頃、海外アワードに注目し、フランスやオーストラリア、ドイツ、ユーゴなど各国のアワードを取得し、DIG というアワードハンタークラブに入会しました。

アワードハントクラブは日本でも CHC 日本支部があり、分離独立した JAG と CHC メンバーが ACC を作り、CHC は創設者のサイレントキーにより消滅しました。この CHC の影響は強く、ドイツも CHC から分立し DIG を作りました。私もご多分に漏れず、CHC から ACC へ、また、DIG に入会后、JAG にも入会しました。

ところで私が土浦クラブの会長（開局 3 年目）に推挙された時、JG1IE 関根さんと相談し土浦アワードを発行する事になりました。JA1IOA、JG1WMN、JE1RLK 等、そうそうたるメンバーによって誕生しました。

1 番から 10 番はクラブ外の方に割り当て、クラブ員は 11 番から発行することになり、私は 17 番、奥様は 22 番でした。

さて、アワードハントは、とにかく電波を出す。特に、CQ を出してカードを発行する、これが基本です。7MHz で CQ が出せるようになれば、一人前のアワードハンターになれるでしょう。特に JA1IOA 矢口さんが全国の道の駅を回ってますので、それを追いかければ、全町村賞や AJD や WAJA、道の駅アワードなどが、簡単にできてしまいます。おもしろいですよ。ひとり JA1IOA だけで、各アワードが完成するのですら JARL もびっくりでしょう。アワードハンティングは楽しいです。思い作りにもなります。やってみませんか。おもしろいですよ。

次に無線と私ですが、我が家は一族ハムです。子供たちは小学校 5 年生になったらアマチュア無線従事者を取ると約束事をし、孫にもそれを押しつけようとしています。

まだ携帯電話が無い時代 1985 年の筑波科学万博時は、ハンディー機が大活躍し娘の JQ1VSQ と連絡し合い、各科学館の行列に並びました。子供たちは並ぶのに飽きて



しまいますから、地球広場とか、空いてるブースに遊びに行かせ、入場近くになると呼び出し、迷子の心配は全くありませんでした。息子も資格を取り、私より早い JH1WNE というコールを貰いましたが、今は無線に出ず某メールに使っているようです。

私の人生の中で節目、節目に大きな病気をしてしまい、読売一万局は心筋梗塞後、胃がん全摘手術後は、DXCC オーナーロール入りと何か大病になるごとに、新しい何かが、私の上に誕生しました。

現在、胃がん全摘後抗がん剤を飲み、食欲不振、めまいなどに戦っておりますが、無線だけは必ず聞いてます。私、頑張ります。

皆さんも病気に負けずに、頑張って長生きしてください。それと無線とパソコンを楽しみましょう。小澤 靖 現在63歳 体重56キロ
抗がん剤を服用しながら頑張っています。

増刊400記念に向けて

JS1IGV 吉田秀明

土浦クラブの皆様、増刊400号記念、おめでとうございます。

心よりお祝いを申し上げます。

今回、私は、JA1PBV 伊藤氏より原稿の依頼があり、筆を取らせて頂きました事を、大変光栄に思い深く感謝の意を表したいと思います。

何を書こうかと色々悩みましたが、今回は、私の心感じるままに、つれづれなるままに、筆を取らせて頂こうと思いました。

題名は、三つの宝物です。

私は、皆さん一部の方もご存じの通り影ながら、私は、名前だけのクラブ員でも有ります。又、同時に水郷クラブを支える若手一員でも有るのです。

私には、現在三つの宝物が有ります。

まず一つめは、今は亡き矢口先生 JA1VN が自分のシャックで寛いでいる写真。これは、私が、真鍋小学校の桜を写真で撮り続けていることを知った先生が、私の写真を欲しがっていました。私は、まだ納得がいかないから納得の出来る物が出来るまで待っていて欲しいとお願いして待って頂いているうちに先生は、他界してしまいました。

お約束は、お約束ですので、私の桜の写真をキャビネに伸ばしフレームに入れ先生の御仏壇にお供えて御香をともして来ました。

その時に、奥さんから先生の姿お写真を頂いたものです。

それと、現在、電柱に上がっている 50MHz の 8 エレは、矢口先生オリジナルの物です。昔の 50MHz の 8 エレを改造してくれた物です。この 2 つは私にとっては、とても大切な宝物です。写真は、シャックに飾っております。これは、私にとっては、何よりの形見分けです。・・・私には、かけがえのない物です。

2 つめは、矢口先生の友人でもあり、DX ライバルであった水郷クラブの JA1JYZ 玉造 OM のバイプロのキーです。彼は、私の良き CW や DX の先生でした。彼も VN の後を追うように 2 月に亡くなりました。私は、初めは 50MHz が面白く、HF には余り興味がなかった頃に HF の楽しさ CW の奥深さを教えてくれた一人でした。

私が、雑魚は、QSO しないと彼に言ったら、「お前よく考えて見ろ！ JA は一番の雑魚だぞ」と怒られた記憶が鮮明に蘇ります。又、CW が上手く出来なくて途方に暮れていたときも「やらぬから出来ぬのだ。出来るまでやれ、繰り返しやれ」と喝を入れられました。何時も良くシャックに遊びに来てくれていた玉造 OM も VN 先生が入院していた時期に彼も同じ病院に入院をしていました。

土浦クラブの中には、関係無い人物じゃないかと言われそうですが、私にとっては、無線の世界の奥深さを教えてくれたとても大切な人物でも有ります。

彼のバイプロも彼の写真と一緒に何時も磨きをかけてシャックの VN 先生の脇にお供えてあります。

三つめは、物や形では残っていないけれども、やはり、同じように水郷クラブのDXメンバーである朝比奈先生 JA1CHN の人の付き合い方、見ぬき方でしょう。

彼は、教育長も務め上げた人物でしたから、私には、良く人との接し方、見ぬき方を教えてくださいました。お互いに利害関係ではなく、本当の意味で長く付き合える人物を自分の目で見抜きなさい。物欲の有る付き合い方は、後で必ず拗れる。

君は、まだ若いから、もっともっと、無線ばかりでなく、多方面にも目を向け利害関係にとどまらず、視野を大きく持って、自分自身を成長させなさいと、良く遊びに行く度に言われました。私は、形、物として、存在はしないけれども、朝比奈先生は、偉い立場に有りながら、時には指導者として、時には同じ趣味を持つ友人として、私と同じ視野に立って育ててくださった、かけがえの無い人物でした。

私は、先生が、指導してくださった視点に立ち、出来るだけ、多面的に多重的に物事を考えるように心がけております。

矢口先生とも上司、部下で有った朝比奈先生の指導も私にとって大きな財産であり形のない、宝物でも有ります。これが3つの私の宝物です。

私は、個人的では有りますが、JA1PBV 伊藤氏がボランティアでアフガニスタンや他国で活躍されていることを非常に尊く素晴らしい業績だと思っております。ただ、私は、彼の業績や国際貢献が素晴らしいと思うのであり、彼＝クラブの業績とは、思っておりません。12月号の土浦クラブの会報に一部記載がありましたが、DXは平和である事が第一の条件であり、現在のパレスチナとイスラエルのお互いにやっていることは、人道的にも、お互いの利害においても、国家として良いこととは思えません。民間人も多数犠牲者が出ているようです。とても悲しい事であり国民が不幸な事だと思っております。

そう言う中で JA1PBV 局伊藤氏の活動は、地道でありながらも、平和に導き、又、世界に貢献する大きな原動力であり、日本の素晴らしい国際貢献の第一歩だと私は、考えております。

又、別な視点から見ますと、土浦クラブでの中にも、もの凄く物作りの技術に優れている方や人間的に心の秀でた方もいらっしゃいます。その様な方がクラブだけにとどまらず、国内でも地域でも良いから、貢献出来たならば、素晴らしい・・・社会的貢献になるのでは、と考えることが多々あります。

私は、そう言う方にこそ、色々尋ね多くを学んで行きたいと思うことが有ります。

私には、伊藤氏のように、海外へ行って自分の身をさらしてまで、ボランティアなどは出来ませんし、その勇氣すら無いのが現実です。彼は、日本を越え世界の視点に立って物事を考えることが出来る貴重な人材です。彼は、旅行ではなく、技術力及び国際貢献という意味で命がけで出かけるのだと、私は思っています。自分の身を危険にさらしながらも。

私も、最近では、QSOばかりでなく、何かに貢献出来ないかと思い、無線を通じてコツコツと信頼関係を築いたメーリングフレンドがアメリカに数人います。彼らと一緒にメーリングをしながらボランティアをしています。彼が言うには、日本人はもっとお金ばかりでなく、信頼という面で世界に貢献すべきであると言うのです。私は、ささやかなボランティアですが、沢山のDXの QSL マネージャを務める彼らと共同で、私が暇を見て京都の友禅和紙を用いしおりを作り彼らに送り、貧しい子や恵まれない子達に差し上げてもらい、日本の良さ日本の文化を理解してもらえるようにしています。

お金ばかりでなく、国境を越えて一人の人間として、一人の日本の国民として、わずかでも喜びを分かち合い、少しでも人間が人間らしく有るべき喜びを味わってもらえる様に日々努力を重ねているところです。幸いなことに今のところは、順調に事を運んでおります。

この様な、考えになれたのも、矢口先生を始め、同僚で有る朝比奈先生、玉造 OMのお陰です。無線も一つの要因でもあります。私は人物に恵まれたと思っております。矢口先生、朝比奈先生玉造 OM など無線を通じてとてもかけがえのない貴重な経験をさせて頂けた事に感謝せねばと思っております。

とても残念なことに櫛の歯がこぼれるように、まだ沢山学ぶべき事が有ったのに次々と他界してしまいました。でも、彼らの教えてくれた事、残してくれた経験談こそ、これこそ本当の意味で至宝だと、私は確信しております。

私は、こう思うのです。技術や知識は、生かしてこそ、貢献や財産になると、他界した3人に教えられたことです。

又、私は、もっともっと精進し社会に貢献出来る様努力して行きたいと思っております。

乱雑な文で申し訳有りません。最後までお付き合いお読み頂いた皆様に心から感謝の意を表しますと共に 土浦クラブ各員の皆様のご健勝、ご活躍、土浦クラブの益々のご発展並びにご健勝をお祈りし、御礼のお言葉及び筆を代えさせて頂きたく思います。

これが、私の最後の筆となるかもしれません。お読み、お付き合いくださいまして、本当に有り難うございました。



茨城・栃木
合同 M に
て左から
JF1KZD、
JN1VVE、
筆者
食事の準
備を！

同じく合同 M でジャンク販売
を JE1RLK 田中さんと、



会報400号発行おめでとうございます

JR1CCP 長塚 清

会報400号発行おめでとうございます。そして、毎号の発行ご苦労様です。昭和49年の第1号発行から、事務局の皆さんの努力・ご苦労に感謝いたします。

私は、クラブに入会して、まだ8年ほどですが、土浦アマチュア無線クラブを通じて、いろいろな方との交流の機会を得ることができ大変うれしく思っています。

アマチュア無線は、ずっと、“続けていける” and “続けていく” 趣味として考



えている私にとっては、その思いをさらに後押ししてくれることになりました。

これからも、会員の皆さんの協力・団結で一層クラブの活動がアマチュア無線の発展につながることを期待するとともに、微力ながら貢献できればさらなる励みとなると思っています。経験未熟ですが、これからも、ご指導いただければ幸いです。

(写真 右は JA1PBV、左が JR1CCP 局)

400号発行記念によせて

JA1LIS 飯田 芳雄

会報400号発行おめでとうございます。

会報400号の発行までには、クラブ事務局及び関係者の多大なる労力のお陰と感謝するところです。

今は亡き VN 先生が言っていました、

「行事に参加できないクラブ員は、会報だけを楽しみにしている。予算が無くても、

他を削ってでも、発行したい」と語ってました。会報を作るのは大変だけれども、作りがいがあると。(文に無縁の小生には、なかなか協力できませんでしたが)

クラブ行事には出来るだけ参加をする様にしていますが！ これからも大変な事と思いますが、会報は楽しみにしております。

又、500号、600号と続く事をお祈り申し上げます。(写真左がご本人)

400号によせて

事業担当 JA1BNH 西成 弘

400号おめでとうございます。

同時に会報発行に尽力された多くの関係者のかたがたご苦労様でした。
これから500号を目指して頑張りましょう。

400号を逆算すると33年4ヶ月となり昭和49年に第一号が発行された事になります。



当局がこの地に家を建て開局したのが昭和49年で、その間、絶えることなく発行されたこと頭が下がります。

家を建てる際に、昔、亀有の工場と一緒にJA1GIZ 関川OMに土地と大工

さんを紹介して頂きJG1WMN局に設備工事をしてもらい現在もお世話になっています。

これもHAMを続けていたお陰と思っています。今後のクラブ員各局の健康と発展を祈ります。(右から3人目がBNH局)

忘れられない味

事業担当 JF1KZD 池田 正之

冬、「先生 どうも、池田です。」いつものように車庫側のガラス戸から呼びかけると、「あ、池田さん、丁度いい所へ来た、忘れないうちに、いつもの出来たから味みてくれ」と、渡される包み、中は冬の定番瓜の粕漬けである。

あれは何年前だったかVN先生より相談を受けた。酒粕が手に入るのだが粕漬け用の白瓜が売ってないので、自分で作りたいと言うもの。たしかに浅漬け用の青瓜はいくらでも店にあり、手に入り易いが粕漬けは難しく誰も手を出さないで一般には売っていない。苗でさえも、あまり目にしないのである。

そこで、苗作りから瓜作り。そして、粕漬けとすべてをやろうという事になり、畑の準備を手伝う事と成った次第である。その何年か前より、田中町の自家菜園を手伝ってはいたが、またまた増えてしまった。

5月ごろ種を蒔き同時に畑の準備。鶏糞と肥料を入れトラクターで耕うん 黒マルチを張った。畑は田中の田んぼの中なので地力は十分あるのだが渴くとカチカチでトラクターも歯が立たなくなる。黒マルチは絶対必要だった。

瓜は簡単な野菜だが、その年の天候に非常に左右されやすく 実の着かない年や豊作で持て余すほど出来た年もあったが、夏のひでりに枯れそうになり 水掛に毎日のように通っていたようである。そんな思いをしてやっと出来た白瓜、ここまでが第一段階で粕漬けは後がたいへん。まず塩で漬ける それから塩を抜き今度は塩を入れた酒



粕で漬け込み 最後は砂糖などで味付けした酒粕でまた漬けると、年末ごろにはあめ色になった粕漬けの完成となる。

まさにVN先生の努力のたま物、「うちのは少し甘めだよ。」と年末に渡された瓜の粕漬けは、一家で感動モノであったが、それもいい思い出になってしまいました。そして、少し甘めのその味は、私にとって一生忘れられない味になりました。(写真左)

会報発行400号、おめでとうございます

事業担当 JG1HJV 森田 隆

和48年に電話級の免許を取り、JG1HJVを開局して35年になります。当時は、中学1年生だった私も、今年で49歳、3人の男の子の父親です。お陰様で長男もJE1OPY、次男もJF1MCFを開局し、三男もそろそろ免許を取ることを考えているようです。クラブの行事にも家族そろって参加させていただいています。

多くの方もそうでしょうが、無線の免許を取るきっかけとなったのは、入学した中学校にJA1VN 故矢口孝志先生がいらっしゃったことです。現在は小学校の教師をしていますが、無線以外でも、私の人生に大きな影響を与えてくださったのには、矢口孝志先生の存在は大きかったと思います。

中学生時代は、土浦四中の4階の屋上に約10mのタワーを建て、JH1ZPJのコールでQRVしていました。当時の土浦市内では、一番高いANTだったでしょう。その当時は、四中にも免許を持っている方も十数名おられました。現在も出ているのは、ごくわずかです。学校以外でも、アマチュア無線を通してたくさんの友人ができました。中学生でも「一人前」として扱ってもらえる無線の世界のすばらしさを感じました。JG1HJVを開局してからもたくさんの友人ができました。今もおつきあいのある方も、ほとんどが、何らかの形で無線と関わっていると思います。当時は、「土浦クラブ」は大人のクラブでしたので、友達に誘われ「霞ヶ浦火腿クラブ」に入会しました。その頃はJR1CCP局、JR1DLX局が中心となって活動していました。JH1ZFRのコールで、よくコンテストや移動運用を行いました。未成年のクラブでしたので、機動力もなく、土浦クラブの方々にもずいぶんご迷惑をおかけしたことでしょう。しかし、土浦クラブの諸先輩方は、いやな顔ひとつせず、色々と協力してくださいました。中学校卒業後は、土浦工業高校の電気科へ進学しました。卒業の頃は、クラスの半分以上が無線の免許を取っていましたが、今はどうなっていることか……。

その当時で一番思い出に残っているのは、JF1MFE 久松さんに御殿場のモービルFOXに連れて行ってもらったことです。初めての遠出で、首都高速を抜け、東名高速へ。横浜を過ぎたあたりで、「ボン」という音がし、突然足下から水蒸気が……。ラジエーターホースが抜けたのです。ぼーっと見ている私の前で、久松さんは手際よく応急処置をしていました。さすがプロだなと感心しながら見ていました。するとその脇を、JG1WMN 葛綿さんとJF1PEL 山越さんの車が猛スピードで通り抜けて行きまし

た。当時、流行っていた7/8λのANTが屋根につきそうでした。いったい何キロ出たのかな???

高校を卒業し、運転免許を取り、最初に車に付けたのは2mも無線機でした。その後、JR1VGの試験運用が始まり、430にも頻繁に出るようになりました。大学時代は、交通の便が悪かったため車で通うことも多く、JA1JRK谷田部さんの手作りのレピータは利根川の土手あたりまでアクセスできました。当時としては、夢のようにした。

大学を卒業して教職に就き、VN先生から「土浦クラブへ入らないか」と誘われ、すぐに入会させてもらいました。早いもので、それも、もう二十数年前になります。「土浦アマチュア無線クラブ」と名前が改まりましたが、諸先輩方が温かく迎えてくれました。最初は、行事にもあまりでられませんでした。現在は、できるだけ参加させていただいています。ANTの工事や整備等でもJG1WMN葛綿さんをはじめとした先輩方に助けられて、現在は、ほとんどのバンドのQRVできるようになりました。海外にいた、JA1PBV伊藤さんとも貴重なQSOができました。

そのような今年の1月、JA1VN矢口孝志先生の突然のご逝去、2日前に会ったばかりだったのに。JE1RLK田中さんから聞いたときは、目の前が真っ暗になったようなショックでした。しかし、にぎやかなことが好きだったVN先生の告別式にはたくさんの方が参列して下さり、送り出してあげることができました。茨・栃合同ミーティング（私は大して役には立ちませんでしたが。）も盛大に行われ、土浦アマチュア無線クラブの健在ぶりが大いに発揮されました。VN先生も、あの世できっと喜んでいることと思います。

12月には、JA1CHN朝比奈先生のご逝去と、ひとつの時代が終わってしまったような気がします。きっと、二人はあの世で無線の自慢話に花を咲かせていることでしょう。お世話になった、偉大なるお二人のOM局を失ってしまったことはとても残念なことです。しかし、これからは両先生方が行われてきた伝統を引き継ぎ、微力ながら土浦アマチュア無線クラブやアマチュア無線の発展の努めていきたいと思えます。

悲しいことばかりでなく、嬉しいこともありました。JA1PBV伊藤さんやJG1WMN葛綿さん等の諸先輩方のお声がけで、しばらくQRTされていたOM各局が復活されたことです。これから、もっともっと土浦の空がにぎやかになることでしょう。

土浦アマチュア無線クラブの、益々の発展を祈念し、会報第400号発行記念の原稿とさせていただきます。

円内が筆者とご子息





400号創刊にあたって

運営委員 JA1PBV 伊藤 寧夫

昨年1年間、そう、VNの訃報を聞いたのがソロモンの離島。GIZO島でした。

大木さん(JH1WGP)とソロモンのマライタ島に行き、大木さんを見送り、フィジー、ツバルと周り、ソロモンに戻り、無線網の構築に、350km離れた小島に渡った時でした。GIZO島は、津波の影響を受け、地面に穴があき、集落は高地に避難し支援の方は更に別の島に渡って行いました。結局、帰国を急いだのですが、空席が無く告別式への参列は適わぬ夢となりました。

VNの功績は、全てのクラブ員の方がご承知と思いますが、実に偉大だったと思います。その恩恵を受けた一人として、是非、お返しをと思ったのが、離島で考えたことです。

帰国後は、現地での運用のQSLカードの整理とVNの整理に時間を使いました。クラブ員有志による作業へのお手伝いとシャック整理を行いました。

400号、長いですね。よくもまあ、長続きしました。ながきや良いつてもんではないにしろ、継続は力なりと言う言葉もあり、素晴らしい事だと思います。

また、私も会員として継続できたと言うのは、素晴らしいことと思います。

38年勤めた会社を早期退職し、アフガンに1年8ヶ月。その後、滋賀県で、フィリピン人151人を束ね2年4ヶ月の間単身で生活したことは、私の人生で貴重な経験となりました。

途上国支援、VNは、嫌ってましたが、私の心情からすると日本でボーっとしているならわが身をささげるとの思いがありましたので、ラオス・モーリタニア・西サハラ・アフガン・ソロモン・その他と走り回っていました。その間、VNは、だめだと言いながらQSLカードの転送をWLL局と一緒にしてくれていました。

アマチュア無線、利害に関係なく自分の設備で世界と交信できる。今では、携帯電話で誰とでも話が出来るといながらも、太陽活動の影響があるかもしれませんが、偶然の交信を国内外で楽しんでます。

そう、長いです。アマチュア無線。昭和38年12月に電話級の資格を取ってから、はや、40年は超えました。社会に入って勤めた会社が38年。その後、7年を経過しましたが、挫折はあったものの40数年も局を継続中です。なんと長いことか。我ながら天晴れとってあげたいと思います。

仕事や家庭での多忙な時期もありましたが、こんない長く付き合っているのは、寿命以外には見当たりません。

会員各位も、何かとお忙しいとは思いますが、是非、生涯の友としてアマチュア無線、そして無線で知り合えた人との長い付き合いをして欲しいものです。挫折は付き物です。でも、そこから這い上がるのも人生です。

長ったらしくなりましたが、クラブ会員と知り合えたこと、そして長くお付き合いをしていただいていることに感謝して、記念号の記事を終わります。

最後に、記念号発行にあたり編集の作業をさせていただきました。

記事をお送り頂いた方々への感謝と共に、勝手ながら編集に校正させていただいた事をお詫びします。

≦≦≦≦≦ お 知 ら せ ≧≧≧≧≧≧

J H 1 W G P

★ クラブ総会及び土浦レピータ管理団体総会のお知らせ

2月号からお知らせ致しておりますが土浦アマチュア無線クラブ総会を開催いたします。多数参加されますよう御願いたします。

★ 日 時 平成21年3月22日(日)・・・午後1時より

★ 会 場 二中地区公民館二階会議室

★ クラブ総会終了後、レピータ管理団体総会を行います。

レピータ維持にご賛同頂ける方は、**従事者資格と従事者免許番号、JARL 会員か否か**をお知らせ下さい。

お願い：同封のはがき(出欠の返事、委任状)を総会前日まで届くよう忘れずに投函してください。(全員)

- ・ 総会当日、21年度のクラブ会費(レピータ会員はレピータの会費)を受け付けますので宜しくお願いたします。欠席される方は出席者に依頼するか、4月末までに納入ください。(レピータ会員は総会案内に同封の振込み用紙で納入)

◆**クラブ会費とレピータ会費は振込み先が異なりますのでご注意ください。**

★ ARDF 審判員講習会のお知らせ

茨城県支部では、ARDF 審判員資格を取得・復活するための講習会を実施します。また、今年の10月に茨城県支部が主体となりARDFの全国大会があります。皆さん!土浦クラブからも出来るだけ資格を持って協力しましょう。

日時:2009年3月15日 午後1時より 約4時間(休憩含む)

場所:茨城県職業人材センター B33(旧・水府町の職業訓練大学校)
水戸市元吉田町733

費用:教材費1,000円(ARDFハンドブック)

申請手数料1,000円(写真縦3cm×2.5cm一枚)

対象:B級審判員資格取得希望者、A・B級資格復活希望者

★ かすみがうらマラソン救護ボランティアについて

4月19日(日)に行われるマラソン大会の救護ボランティアについては、大会本部の携帯電話を使用し、今年も参加することになりました。

3月28日(土)午後7時より二中地区公民館で打合せを行いますので、ご協力頂ける方はご出席ください。

★ 会報のメールによる配布について

現在会報は、全会員に毎月送付していますが、経費削減や発送負荷軽減を考慮しメールでも良いとの意見や従来通りがよいとの意見もあります。そこで近々両面での運用を考えています。事務局宛に可否とご意見を連絡願います。

★ 400号記念特集会報御礼

皆様のご協力により沢山の記事が集まり大変豪華な400号記念特集誌になりましたこと厚く御礼申し上げます。



第23回 国民文化祭特別局 8J1I 2008,10/8~10/14 竜が峰山荘

役員名簿 平成 20 年度 4 月 1 日

役名	局名	氏名
会長	J01LEA	松澤 由幸
副会長	JG1OSX	木島 一夫
副会長	JE1RLK	田中 文之
事務局	JH1WGP	大木 武
事務局	JF1MFE	久松 満男
事務局	JL1LLM	中田 達也
会計	JN1VVE	高野 初江

運営委員	
局名	氏名
JA1PBV	伊藤 寧夫
JE1SWO	大内 文男
JM1KBH	山口 利夫
J01FYS	久松 充信

事業担当	
局名	氏名
JA1BNH	西成 弘
JA1PMS	鳥羽 久良
JE100N	坂本 竜一
JF1KZD	池田 正之
JF1PEL	山越 道則
JG1HJV	森田 隆
JG1NUV	入山 俊昭
JG1TPW	野尻 紀年
JG1WMN	葛綿 繁
JS1VPY	大関 傳

JARL 茨城県支部役員への協力会員

県支部 役員	JG1WMN	葛綿 繁	運営委員 (事業)
	JF1MFE	久松 満男	運営委員 (催事)
	JG1TPW	野尻 紀年	監査指導委員

2008 年度 第 12 号	通巻 400 号	JARL 登録番号 14-1-0018
発行日: 2009 年 3 月 1 日	発行者: 土浦アマチュア無線クラブ 事務局	
オンエア ミーティング: 毎週月曜日 PM9:00~ 土浦レピータ (439.70MHz)		
連絡先: 土浦アマチュア無線クラブ 事務局(JH1WGP) 大木 武		
Tel: 029-857-5488 amx03613@mail2.accsnet.ne.jp		